

*Crown English Communication I*, pp. 30–31.

**Lesson 3****A Canoe Is an Island**

In 2007, the Hawaiian canoe *Hōkūle‘a* and another boat *Kama Hele* sailed from Hawaii all the <sup>(1)</sup>way to Japan. Uchino Kanako was a crew member. Here’s her story.

**—1**

I have always loved the sea. When I was in college, I visited Miyake-jima with a <sup>(2)</sup>friend of mine. I explored the ocean and fell in love with its beauty. <sup>(3)</sup>Ever since this visit, I have really been interested in the sea.

I knew I had to learn more about the sea, but I didn’t know where I could study. And then I found a book about Nainoa Thompson and the *Hōkūle‘a*. I read about how this <sup>(4)</sup>native Hawaiian learned traditional navigation skills from his master Mau Piailug of Satawal. I also learned that the *Hōkūle‘a* successfully sailed from Hawaii to Tahiti in 1976 by using traditional navigation.

I became very interested in the ancient skills needed to <sup>(5)</sup>navigate across the ocean. I made up my mind to go to Hawaii, and to take a look at the *Hōkūle‘a* with my own eyes.

Lesson 3—Lead

(1) way<sup>1</sup> 図 成句 **all the way**, p. 2220.

**all the way**\* (1) はるばる、ずっと (空間的にも時間的にも使う) ▶drive *all the way* down to Miami マイアミまでずっと運転する/It rained *all the way*. ずっと雨が降っていた。(2) (範囲の広さを示して)さまざまに。(3) 完全に、すっかり; めいっぱい ▶I'm (there) with you *all the way*. その点でまったく同感です/turn the volume *all the way* up [down] ボリュームをいっぱい上げる[下げる].

- way の成句として辞書に記載があるので調べさせて、頻出する成句としてアスタリスク (\*) がついていることを確かめさせる。
- 教科書本文では **all the way** に場所を表す **to Japan** という表現が続いていることから、よく似た空間表現が辞書の用例になっている成句義(1)を参照させ、ここでは「はるばる日本まで」という意味になることを理解させる。
- さらに 2 の解説や辞書の第 2 用例から、時間的な表現にも使えることをチェックさせるとよい。

Lesson 3—Section 1

(2) friend 図 1, p. 800.

**friend**<sup>1</sup> /frend/ (i-ie- は /e/) [語源は「愛する人」] (形) friendly, (名) friendship

— 図 (Ⓜ ~s /-dz/) ㉑ 1 友達, 友人 (ペットなどにも用いる); 知人; [~s] «…と» 友達同士 «with» (→intimate 図) ▶I am friends with Deborah. テボラと友達である (友人としていない)/[have (got) [make] a friend 友達がいる[できる]/Any friend of John's is a friend of mine [×me]. 《話》(友人に人を紹介されて)ジョンの友達なら私にも友達だ (1) my friend は会話の参加者が誰なのかわかっている場合や、名前の前に置いてその友人を紹介したり、その友人について話したりする場合に用いる: My friend Yuki is a dentist. 友達の由紀は歯科医なんです; →mine<sup>1</sup> 語法, ↓ 類義. (2) 人名を続ける場合, a friend of John's (ジョンの友人(の 1 人))のほかに, a friend of John という形もあるが、所有より関係を示し「ジョンに対して友情をもっている人」の意/

- 意味がわかっているので生徒は辞書を引こうとしない語だが、スピーキングやライティングに使える情報を確認させたい。辞書の第 3 用例が教科書本文と同じ **a friend of mine** になっているので参照させ、チェックさせる。
- 上記用例では、言い換え可能な表現を示す角かっこを使った部分で、**mine** の言い換えとして **me** は使えないことが × を用いて示されているので確かめさせる。
- 「私の友達」と表現する場合、本来 **a friend of mine** とすべきところで生徒はしばしば **my friend** を使うので、用法をしっかりと覚えさせたい。**a friend of mine** と **my friend** との違いが、語義 1 第 3 用例にある 2 の解説(1)に説明されているので確認させる。教科書本文では、文脈から誰とは特定できない友人を示しているので **a friend of mine** が使われていることに注意させる。

(3) ever 副 成句 **ever since (...)**, p. 677.

**ever since (...)**\* [[副詞的に] (それ以後)ずっと; [[前置詞・接続詞的に] (...して)からずっと ▶We've been together *ever since*. 私たちはそれからずっと一緒です.

- since の意味がわかっているれば解釈は可能だが、**ever** が「ずっと」という継続性を強調する役割を果たしていることに注目させる。
- 2 つの用法指示, [[副詞的に]と[[前置詞・接続詞的に]のうち、教科書本文は前者の「[[副詞的に] (それ以後)ずっと」の方に該当し、この部分が「この訪問以降ずっと」という意味になることを確認させる。

(4) native ㊦ 2, p. 1327.

**na·tive** /néɪtɪv/ [原義は㊦ 5; naïve と同源]

— ㊦ (比較なし) 1 ㊦の前で] 出生地の, 母国の, 故郷の  
▶one's native land [country] 母国/one's native language [tongue] 母(国)語/her native Canada 彼女の母国カナダ/one's native town 《やまれ》故郷 (1 one's hometown が普通).

2 ㊦の前で] その土地[国]に生まれた[育った], 土着の, 生粋の(人) ▶a native Texan 生粋のテキサス人.

3 《時にけなして》 ㊦の前で] 住民[先住民]の (1 特に白人から見て) ▶native tribes [traditions] 先住民の部族[慣習]/native culture [art, costumes] 先住民の文化[芸術, 衣装].

4 《動植物が》《土地に》固有[特有, 原産]の (indigenous) «to» ▶the native birds of Southern Europe 南ヨーロッパ原産の鳥/The tree is native to Canada. その木はカナダが原産です (≒The tree is a native of Canada.).

5 ㊦の前で] 生まれつきの, 生得の, 先天的な(性質・能力など) ▶native sense 生まれもった感覚.

- 教科書本文が this native Hawaiian と名詞に先行していることから, 形容詞の限定用法であることを確認させる。
- 角かっこを使った用法指示が[㊦の前で]となっており, さらによく似た表現が辞書の用例になっていることから語義 2 に導く。
- 見出し語の横に語源情報が示されているのでチェックさせる。【原義は㊦ 5; ...】と記されていることから, カタカナ語の「ネイティブ」が持つ「(英語を話す)外国人」というイメージは, 英語の native とはズレがあることを確認させる(㊦ 5 は「生まれつきの」)。

(5) navigate ㊦㊧ 1, p. 1329.

— ㊧ 1 《船・飛行機が》航海する, 航行[飛行]する; 《人などが》(船・飛行機を)操縦する; 《比喩的に》舵を取る, 誘導する ▶navigate by the stars 星を見て航海[飛行]する.

2 《人が》(車の針路・経路を)決定する, ナビゲートする; 導く, 案内する.

- (4)の native を引けば, 辞書の数ページ先には navigate があるので簡単に調べさせることができる。さらに教科書 30 ページ冒頭の写真の左上にある引用詩句で使われている名詞 navigator や, 前の段落末に出ている名詞の navigation も, 辞書では次ページに出ているので一緒に確認させたい。

**nav-i-ga-tion** /nævɪg(ə)ɪ(ə)n/ [→navigate]

— ㊦㊧ 1 航海術[学], 航空術[学]; (船・飛行機・車などの)誘導 ▶a satellite [an automotive] navigation system 衛星航法システム[カーナビ].

2 航海, 航行; 運行, 運航 ▶ocean navigation 遠洋航海/inland [internal] navigation (川・湖などを運航する)内陸航行. 3 [IT] (サイトの)閲覧.

◆N: Acts [[the ~]] [英史] 航海法[条例] 《イギリスが貿易を行う船をイギリス船籍に限定した条例》. ~ light ㊦通例 ~s] [海] 航海灯; [空] 航空灯.

~al /-n(ə)l/ ㊦勢移動 ㊦ ㊦の前で] 航海[航空]の.

**nav-i-ga-tor** /nævɪgətər/ ㊦㊧ 1 航海士, 航空士. 2 航海者; (近世初期の)海洋探検家. 3 (飛行機などの)自動操縦装置.

- 教科書本文では目的語となる名詞ではなく前置詞句が続いていることから, 自動詞用法をチェックさせる。ここではカヌーの話をしていることから語義 1 に導く。
- ㊧ 語義 2 や㊦navigation の語義 1 の用例を参照させて, いわゆる車の「ナビ」はこの語から来ていることを確認させるとよい。

*Crown English Communication I*, p. 32.

—2

After I finished college, I went to Hawaii to study ocean ecology at the University of Hawaii.

I went to see the *Hōkūleʻa*. (1)She was back from a long voyage. I began to participate in repairing the *Hōkūleʻa* for the next voyage. I trained to be part of the (2)crew. I learned about traditional navigation and Hawaiian culture.

In 2007, the *Hōkūleʻa* was planning a five-month voyage from Hawaii to Micronesia, and then to Japan. I felt (3)honored when I was asked to be a crew member on the canoe from Micronesia to Japan.



*Crown English Communication I*, p. 33.

In January 2007, the *Hōkūleʻa* started out. On the 56<sup>th</sup> day, we arrived at Satawal in Micronesia. People <sup>(1)</sup>welcomed us warmly. They carried a sign saying, “Welcome to Satawal.”

Then we headed for Okinawa. We were able to see the Big Dipper. We could also see the Southern Cross. Being <sup>(2)</sup>familiar with the movement of about 220 stars was just one of the skills which we needed. We also learned to read the movement of the waves and <sup>(3)</sup>changes in wind direction. We were on our way to Okinawa, slowly but steadily.

(1) welcome 動 ① 1, p. 2229.

— 動 (～s /-z/; ~d /-d/; -coming)  
 — ① 1 〈人など〉を歓迎する; 〈人〉に歓迎のあいさつをする; [~ A to [into] B] B(場所)にA(人)を喜んで迎え入れる ▶ Jessica was **warmly [heartily] welcomed** by her host family. ジェシカはホストファミリーから温かい[心のこもった]歓迎を受けた/**welcome** the guests **with open arms** 来客を双手を挙げて歓迎する/It is my pleasure to **welcome** you to Japan. 日本にお迎えできて何よりです。

- ・ 教科書本文では us という人を表す目的語が続いているので、他動詞用法を調べさせる。他動詞に続く典型的な目的語(選択制限)についての情報が山形かっこく ) に示されているので、〈人など〉が目的語となると記した語義 1 に導く。
- ・ 辞書の第 1 用例には、教科書本文と同じ副詞 warmly が使われているのでチェックさせる。よく使われるコロケーションとして太字用例になっていることにも注意させる。
- ・ 教科書本文の次行の表現(Welcome to ...) が間投詞の第 1 用例として太字で示されているので確かめさせる。『ウイズダム英和辞典』は頻度順に語義を記しているので、この表現が頻繁に使われることに触れるのもよい。また第 2 用例として太字で示されている Welcome back [home]! も会話の重要表現として確認させる。

**wel·come** <sup>英</sup> /wélkəm/ [語源は「うれしい (will) 訪問客 (comer)」]

— ① [(+)] ようこそ、いらっしやい (は場所の表現) ▶ **Welcome to** Britain. イギリスへようこそ/**Welcome back [home]!** お帰りなさい (長く留守をしていた人に)/ Good evening and **welcome to** our program! 今晚は、当番組へようこそ (番組司会者などのせりふで)。

(2) familiar 形 2, p. 717.

2 [be ~] 〈人が〉〈物・事〉を熟知している、〈物・事に〉精通している «with» ▶ I'm **familiar with** his work. 彼の仕事はよく知ってるよ (=His work is **familiar** to me.).

3 〈景色・問題・話などが〉一般的な、よくある。

4 〈人と〉親しい、親密な «with»; 打ち解けた; くつろいだ; 〈言葉が〉くだけた ▶ be on **familiar terms with** A A(人)と親しい間柄である。5 〈否定的に〉〈目上の人などに〉なれなれしい; 〈人と〉性的関係がある «with»; 厚かましい、無作法な; ぞんざいな。6 〈動物が〉飼い慣らされた。7 〈古〉家族の。

- ・ 教科書本文が前置詞 with を伴っていることをチェックさせる。共に使われる前置詞などを示した二重かぎかっこく » で «with» と記されている語義 2, 4, 5 を比較させる。
- ・ 教科書本文では familiar with the movement と、with 以下に人ではないものが続いていることから語義 2 に導き、ここでは「(星の)動きに精通している」という意味になることを理解させる。

(3) change 図 1, p. 332.

— 図 (②) ~s /-iz/) 1 ① «…における» 変化, 推移, 変遷; 修正(点), 改良(点) «in» ▶ There will be **no change in** policy. 今後方針に変更はない (1 a change of policy は「方針の転換»; ↓ 2)/radical **changes in** medicine 医療分野の抜本的改革/make (some) **changes to** my report レポートに修正を加える/a **change for the better [worse]** 改善, 改良, 好転[改悪, 悪化]/have a **change of heart** (重大な経験の後)気持ちが変わる/bring about [《かたく》] effect (a) **change** 変化をもたらす/political and social **change** 政治および社会の変遷 [変化]/the major political and social **changes of the period** その時期に政治的・社会的に変わった主要な点 (1 個々の変化・変革の意味では ②)/climate **change** 気候変動。

- ・ 教科書本文では changes が動詞 read の目的語であり、名詞用法であることを確かめさせる。
- ・ 共に使われる前置詞などを示した二重かぎかっこく » で «in» と記されている語義 1 に導き、教科書本文が「風の方向の変化」という意味になることを確認させる。辞書の第 1, 第 2 用例と用例訳, 第 1 用例に続く 2 の解説から、「…の変化」=「…における変化」を意味する場合は in を用いることを理解させる。

*Crown English Communication I*, p. 34.

—3

The crew members who were on the *Hōkūle‘a* were busy. The most important job was steering the canoe. Three teams took <sup>(1)</sup>turns. My team worked from 10 a.m. to 2 p.m., and then from 10 p.m. to 2 a.m. The team steering the canoe had to stay <sup>(2)</sup>alert all the <sup>(3)</sup>time.

One night, the ocean was exceptionally calm. The sea was so quiet that you could even see the



## Lesson 3—Section 3

(1) turn 名 成句 **take turns**, p. 2131.

*take turns* = 《英》 *take it in turns*\* «…を/…するのに» 交替でやる «*in, at/to do, doing*» ▶We took turns sitting with her in the hospital. 病院で私たちは交替で彼女の付き添いをした。

- 動詞＋名詞からなる成句は、通常は名詞の項目で挙げられていることに触れた上で、教科書本文の **take turns** の場合は **turn** が名詞であることを確認させる。
- 複数の品詞を持つ語の場合、成句はそれぞれの品詞の語義に続いて出ていることに注意させる。**turn** は動詞部分にも多くの成句があるが、この成句は名詞語義の後に出ているので調べさせ、「3つのチームが交代でおこなった」という意味になることを確認させる。

(2) alert 形 1, p. 53.

**alert**\* /ə'lɜ:t/ [語源は「監視塔の上に」]

形 (more ~; most ~) 1 «…に» 油断のない, 用心深い, 気を配っている, 警戒している «*to, for*» ▶stay alert 気を抜かない/Mothers must be alert to signs of illness in their children. 母親は子供の病気の徴候にいつも注意していなければいけない。

- 辞書の第1用例が教科書本文と同じである語義 1 を参照させ、この部分が「気を抜くことなく、警戒[注意]する」という意味になることを確認させる

(3) time 名 成句 **all the time**, p. 2074.

*all the time*\* (1)(その間中)ずっと; いつも ▶I'm with my kids *all the time*. 私はいつも子供たちと一緒にです。(2) [[接続詞的に]] …の間はずっと ▶She wore a big hat *all the time* she was out. 彼女は出かけている間、ずっと大きな帽子をかぶっていた。

- 成句は構成単語の最も特徴的な語(動詞＋名詞や前置詞＋名詞なら名詞など)に出ていることに触れた上で、**all the time** の場合も名詞の **time** の方に出ていることを想定させてから辞書を調べさせる。
- 2つの成句義のうち、教科書本文は副詞的に用いられていることを確認させ、[[接続詞に]] という用法指示のある(2)ではなく、(1)の方をチェックさせる。

*Crown English Communication I*, p. 35.

reflection of the stars. I was the only one on deck, and I felt very peaceful. I also felt very much connected to the great universe. I was one tiny person on a tiny canoe. But the <sup>(1)</sup>fact is that I was part of the whole.

After leaving Micronesia, we <sup>(2)</sup>traveled a distance of almost 2,000 kilometers. The stars and the sun and the waves guided us. As we got near Okinawa, I felt that we were one big family.

It was morning. “Look! I can see something,” cried one of the crew members. It was an island—Okinawa. But to me at that moment, it was much more than an island. Land, water, people and other life in the <sup>(3)</sup>middle of this vast ocean. It was truly a miracle.

(1) fact ㊦成句 **The fact (of the matter) is (that) ....**, p.709.

*The fact (of the matter) is (that)...* \* (1) [[否定・訂正]] (話) (特に認めがたいこと・予想外のことを述べて) 実は…だ ((ややくだけて) Fact is(,) ...) ▶ He calls himself a doctor. **But the fact is**, he is a pharmacist. 彼は自分を医者だと言っているが、実は薬剤師なんだ。(2) [[話題の導入]] (話) それはそうと…

- 教科書本文の the fact is that ... の形を確認させてから fact の成句を探させる。辞書ではしばしば丸かっこ( )で省略可能な要素を示していることに触れ、ここでは of the matter のない形であることを確認させる。
- 辞書の太字用例に、教科書と同じ but を用いたものがあるので、そこから成句義(1)に導く。[[否定・訂正]]という用法指示や成句義およびその前にある補足説明をチェックさせ、前文で述べていたことを否定する内容が続くことを確認させる。辞書用例の太字部分や教科書本文が but と共に使われていることに再度注意させたいので、ここでは but の前の文で述べている「私は小さなカヌーに乗っているひとりの小さな人だった」というより、それどころか「実際は(海・世界・宇宙といった)全体の一部であった」と述べていることを理解させる。

(2) travel ㊦㊧ ㊨ ㊩, pp. 2010–11.

— ㊦ 1 (ある場所) をあちこち[くまなく]旅行する; …をセールスして回る ▶ travel the world 世界中を旅行する。  
 ㊨ 2 (人・乗り物などが) (ある距離) を進む, 行く ▶ travel 100m in five seconds 5秒間に100メートル進む[走る].

- 教科書本文では a distance of ... と名詞が後続した他動詞用法であることに注意させる。
- その動詞と共に用いられる典型的な主語や目的語の名詞(選択制限)についての情報が山形かっこ 〈 〉 に示されているのでチェックさせる。教科書本文の主語は人(we)であり、目的語は距離(a distance of ...)であることから語義 2 に導き、ここでは約2,000 キロの距離を進んだという意味になることを確認させる。

(3) middle ㊦ 1, p. 1263.

**mid·dle** ㊦ /mɪd(ə)l/ [原義は ㊦ 1]

— ㊦ (㊦ ~s /-z/) ㊦ 1 [[the ~]] 中央; 中央部分, 真ん中; (出来事・期間などの) 中間, 中途; (地位などの) 中位 (㊦物や場所の中心点を示す center とは違い, 事・物・場所の中心(とその周辺)部分や両端[側]から等距離の部分[地帯]をさす) ▶ in the middle of [the garden [his forehead] 庭[彼の額]の真ん中に/a park with a pond in the middle 中央に池がある公園/The cake is still hot in the middle. そのケーキの芯はまだ熱い/He is standing **right in the middle** [×center] of the road. 彼は道路のど真ん中に立っている (㊦細長い場所の中央は center としない)/arrive in the middle of the meeting [night] 会議の最中[真夜中]に到着する/by the middle of next year 来年半ばまでに/the middle of the class [story] 授業[物語]の途中.

- 辞書の第1用例が教科書本文と同じであることから語義 1 をチェックさせて、ここでは「この広大な海のただ中の、陸地、水、人々、そしてほかの生き物」という意味になることを確認させる。
- 語義末尾にある ㊦ の解説を参照させて、center との違いを意識させるとよい

*Crown English Communication I*, p. 38.

—4

On June 9, 2007, we reached Yokohama, the end of our trip. As I think about the voyage, I have a deeper appreciation for our relationship with nature.

Traditional navigation <sup>(1)</sup>teaches us how to see nature. It also teaches us that nature is providing everything we need. We have to learn how nature works in <sup>(2)</sup>order to receive its gifts.

The Hawaiians say: “A canoe is an island, and an island is a canoe.” We can also think of our

Lesson 3—Section 4

(1) teach ㊦㊧ 2, p. 2017.

2 **[[teach A (how) to do]]** 〈人・事実・経験などが A (人など) に…(の仕方)を教える[指導する] ▶The teacher [course] *taught* me (how) to dance. その先生[コース]は私に踊り方を教えてくれた (㊦ 通例過去形では how to dance は単に踊りを教えた事を意味し, to dance は教えて習得させたことを意味する)/Some stories *teach* children how to live in a society. 子供たちに社会での生き方を教えるような物語もある。

3 **[[teach (A) that 節/wh 節・句]]** 〈人・経験・事実などが (A (人) に)…ということを…かを教える, 悟らせる ▶She *taught* her son *that* marriage was important. 彼女は息子に結婚の大切さを教えた (㊦ that は省略しない)。

- 教科書本文が teaches us how to see nature と「teach+目的語+how to do」の形をとっていることを確かめさせる。
- [[teach A (how) to do]]という文型表示から語義 2 に導く。丸かっこ( )は省略可能な要素を示していることに触れ, 教科書本文のように teaches us to see nature とすることもできることに注意させる。
- 教科書本文の次の行が teaches us that ... と今度は that 節を従えていることに注意させ, 文型表示に [[teach (A) that 節/wh 節(句) to do]] とある語義 3 も同時にチェックさせるとよい。基本的な動詞なので teach=「教える」という意味だけではなく, 発信活動のためにどのような文型が取れるのかもしっかりと覚えさせたい。

(2) order ㊦㊧ **in order (for A) to do**, p. 1416.

**in order (for A) to do\*** (かたく) (A (人・物)が)…するために[目的で] (→so<sup>1</sup> as to do 類義) ▶I didn't tell her about his death *in order* not to upset her. 彼女にショックを与えないように彼の死は知らせなかった/*In order* for people to work well together, each employee must know his or her own role within the company. 一緒にうまく働けるように, 一人ひとりの従業員が会社における自らの役割を自覚しなければならない。

- 二重丸括弧で囲って(かたく)と示されているので, かたい表現であることに注意させる。
- 教科書本文が in order to receive its gift となっていることから, ここでは「その恵みを受けるために」という意味になることを確認させる。
- 成句義の中で(→so<sup>1</sup> as to do 類義)と参照指示が出されているので, so<sup>1</sup>の成句 so as to do にある類義 コラム(p. 1873)を調べさせる。(1)にある㊦㊧というロゴは, コーパスから発見された英語使用の実態についての分析であることを示しているので注意させ, ( )で示されている to do, in order to, so as to do の使用域の違いなどを理解させる。このコラムには, (1)以外にも多くの有益な情報が出ているので, 適宜参照させるとよい。

**類義** so as to do と in order to do, to do

(1) ㊦㊧ 「…するために」という表現では to do がもっとも一般的。in order to do と so as to do はともに《書》で好まれ, in order to do の方がより《かたく》, 頻度も高い。so as to do は「結果」, in order to do は「目的」をより意識した表現。

(2) have, know などの状態動詞の前では to do よりも in order to do, so as to do の方が普通; →stative ㊦㊧ ▶I listened to him carefully *so as to* know more about him. 私は彼のことをもっとよく知るため彼の話を注意深く聞いた。

(3) 否定の目的「…しないように」の意味を表すためには take care, be careful などの直後を除いて not to do は用いられず, so as not to do, in order not to do の形が普通用いられる ▶Anna moved quietly *so as not to* [×not to] disturb them. アンナは彼らのじゃまをしないように静かに移動した。

(4) ㊦㊧ 目的以外に自然の成り行き・結果を暗示するときは so as to do が好まれる ▶I got up early *so as to* take the first train. 私は早起きしたので始発列車に乗れた。

(5) so as to do は in order to do と異なり, 通例文頭には用いない ▶*In order to* [×So as to] pass the exam, I think you should work harder. 試験に合格するためにはもっと勉強した方がよいと思う。

(6) so as to do は in order to do と異なり意味上の主語を置くことができない ▶She drove his son to the station early this morning *in order* for him to [×so as for him to] catch the first plane for Moscow. 息子がモスクワ行きの最初の飛行機に乗れるよう彼女は今朝早く駅まで車で送った。

*Crown English Communication I*, p. 39.

planet Earth as a canoe in the vast universe. What are we <sup>(1)</sup>doing with “our canoe”? What do we <sup>(2)</sup>value? Where do we want to go? What is our role as crew members on our canoe? After the voyage to Japan, the *Hōkūle‘a* set sail to go around the world in 2014 to <sup>(3)</sup>raise these questions.

We are all part of nature. We can learn to work together with nature to make our canoe, our earth, a more beautiful and harmonious place for all life.

(1) do<sup>1</sup> 動成句 **do A with B**, p. 579.

*do A with B* 《話》〔疑問文・否定文で; Aは what〕どのようにB(人・物・事)を扱う[処理する, 処置する]か; B(人・物)をどこへやったのか ▶I don't know what to do with my son. 私は息子をどう扱ってよいのかわからない/What have you done with the money? そのお金をどこへやったのですか (1) What have you done with my son? は「息子と何をしましたか」ではなく、「息子をどこへやったのか」となる; What have you done to my son? は「息子に何をしたんだ」の意; ↑ do ... to A) /What have you been doing with your weekend? 週末はどのように過ごしていましたか。

- ・ 〔疑問文・否定文で; Aは what〕という用法指示をチェックさせ、成句義(1)に導く。教科書本文が What are we doing with "our canoe"?となっており、疑問文のためAにあたる目的語の what が文頭に置かれていることを理解させる。
- ・ 成句義や辞書の用例訳から教科書本文が「私たちは『私たちのカヌー』(ここでは前文にある our planet Earth を canoeに見立てた表現)をどう扱っているのか?」という意味になることを確認させる。

(2) value 動他 1, p. 2178.

— 動 (～s /-z/; ～d /-d/; -uing)

— 他 (1) 進行形にしない 1 (人が) (人・物) を尊重する, 重んじる; «…であると/…の点で/…より高く» (人・物) を評価する «as/for/above» ▶value A's opinion A (人) の意見を尊重する/I value freedom far above money. 私は金銭よりも自由をずっと重んじる。

2 «…の金額と» (物) を見積もる, 査定する «at» (1) (しばしば受け身で) ▶The property was valued at \$10 million. その資産は1千万ドルと評価された/I have had my house valued. 我が家の価格を査定してもらった。

- ・ 教科書本文が名詞用法ではなく、目的語の名詞を伴った他動詞用法であることを確認させる。
- ・ ①のロゴに続き「1 進行形にしない」と記されているのをチェックさせ、状態動詞であることを注意させる。
- ・ 教科書本文が自然と我々人間との関わりについて述べていることから、「(金銭的価値)を見積もる」という語義 2ではなく、「尊重する, 重んじる」という語義 1の方がふさわしいことを確かめさせる。

(3) raise 動他 6, p. 1622.

6 (問題など) を提起する; (質問・異議など) を出す ▶raise the issue of AIDS エイズの問題を提起する/raise a question 質問を出す。

- ・ 教科書本文が raise these questions という目的語を伴った他動詞用法であることを確認させる。
- ・ その動詞と共に用いられる典型的な目的語の名詞(選択制限)についての情報が山形かっこ 〈 〉 に示されているのでチェックさせる。教科書本文の目的語が questions であることから語義 6に導く。raiseのような語義番号が二桁にもなる多義語の場合、選択制限に注目することで、適切な語義に素早くたどり着けることを理解させる。